

# 平成 30 年度 第二回足立区経済活性化会議

## 会議録要旨

平成 30 年 11 月 13 日 (火)  
あだち産業センター

## (開催概要)

会 議 名	平成 30 年度 第二回 足立区経済活性化会議			
開催年月日	平成 30 年 11 月 13 日 (火)			
開催場所	あだち産業センター			
開催時間	午前 9 時 30 分から午前 11 時 30 分まで			
出欠状況	委員現在数 19 名 出席委員数 15 名 欠席委員数 4 名			
出席委員	中根 雅夫	阿高 松男	池村 恵一	岡田 ヒロミ
	帯川 利之	近藤 勝	山崎 健	青木 誠一
	阿部 忍	真田 里子	本山 功	秋山 栄一
	瀧野 静江	渡井 良昌	なかだ えり	
事務局	(出席職員) 吉田産業経済部長、島田産業政策課長、近藤企業経営支援課長、 浅見足立区勤労福祉サービスセンター事務局長、茂木経営戦略担当課長 立石企業経営支援課相談・融資係長、松岡産業振興課ものづくり振興係長 (事務局) 産業経済部産業政策課 産業経済協創担当 海老原 管理係 早川			
会議次第	別紙のとおり			
会議に付した議題	1 足立区経済活性化会議委員の委嘱について 2 足立区経済活性化会議委員の紹介 3 足立区経済活性化会議会長の選任について 4 検討事項 【別紙 3】 まちづくりの現状と産業経済部の取り組みについて 5 報告事項 【別紙 4】 (1) 創業プランコンテストの審査結果について (2) 新製品・新事業開発補助金の審査結果について (3) 「足立のものづくり展」の開催について (4) 平成 30 年度あだちメッセの実施内容について (5) 第 1 回あだち都市農業振興プラン推進協議会の開催について (6) 健康経営に関連する事項について (7) 第 2 回あだちの輝くお店セレクションの実施について			

## (会議録要旨)

### 島田産業政策課長

みなさま、こんにちは。定刻になりましたので、「平成30年度 第二回足立区経済活性化会議」を開催させていただきます。

このたびは、皆様ご多用のところ経済活性化会議の委員をお引き受けいただき、深く御礼申し上げます。

私は事務局を担当しております産業政策課長の島田でございます。よろしくお願いいたします。

本来なら会長が進行を務めるところでございますが、委員の改選がありましたので、会長が選任されるまで事務局が進行いたします。お手元にお配りしております「次第」に沿って進めてまいります。

なお、本日の会議は公開となっておりますので、傍聴席を設けております。また、情報公開の関係で、足立区役所2階にあります区政情報課におきまして、委員のみなさまの名簿・会議録・会議資料を公開させていただきますので、あらかじめご了承ください。なお、名簿につきましては、氏名・団体名・任期のみの公開となります。また会議録作成のために、本日の会議を録音させていただきます。こちらもご了承ください。

はじめに、産業経済部長の吉田よりご挨拶申し上げます。

### 吉田産業経済部長

皆さんおはようございます。朝からお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。11月になり区役所の中もバタバタしております。先日、私共は大阪へ視察に行っていました。大阪は、東京と違う状況がありました。大阪の方は、成功すると東京へ出てこようとするようです。現在もその現象は続いており、非常に危機感のある場所であることがよくわかりました。今大阪では、何をやっているかといいますと、企業間交流が非常に進んでおりました。私共も皆さんとの対話を持つ機会を増やし、いろいろな方との交流を増やすことが非常に重要だと考えております。街の活性化につながるかと勉強してまいりました。今後、そのような機会を増やすためにも皆さんのお知恵をお借りしたいと思います。また、本日は街づくりについてもご意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

### 島田産業政策課長

それでは、まず、委員となられる皆様に委嘱状を交付させていただきます。

本来なら近藤区長から委嘱状をお渡しするところではございますが、公務の都合により出席することができません。そのため、区長に代わりまして、吉田産業経済部長から委嘱状をお渡しさせていただきます。なお、本日は皆様からご意見を頂戴する時間をできるだけ多くとりたいと考えております。そのため、大変恐れ入りますが、委嘱状は代表として、前任期で会長をお務めいただいた中根雅夫様にお渡しさせていただきます。各委員の皆様には、席上に配付させていただきましたので、何卒ご了承ください。

なお、大坪昭寛様、鈴木又右衛門様、入江洋介様及び小早川真樹様は所用につき本日、ご欠席です。後日事務局より委嘱状をお渡しさせていただきます。それでは部長、よろしくお願いいたします。

### 島田産業政策課長

では、今回、新たに経済活性化会議の委員になられた方もいらっしゃいますので、本会議について簡単にご説明させていただきます。

経済活性化会議は「足立区経済活性化基本条例」に基づいて設置される区長の附属機関です。

附属機関とは区が行政を行う前提として、区内事業者や区民の方の声を反映するとともに、学識経験者の専門的知識や経験の活用を図るために設置されるものです。

本会議では足立区の地域経済活性化および産業の振興に関する施策の推進に関連して、様々な議題について皆様からご意見を頂戴したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、今回、委員の改選がありましたので、委員の皆様にご自己紹介をお願いしたいと思います。大変恐れ入りますが、2分程度を目安にお願いできれば幸いです。よろしくお願いいたします。

### 中根委員

おはようございます。国士舘大学の中根と申します。本日は、2時間ほどの会議になると思いますが、忌憚のない意見よろしくお願いいたします。

### 阿高委員

東京電機大学の阿高でございます。足立区内の中小企業をいろいろと訪問させていただき、中小企業の事情を大分理解しているつもりでおります。本日の会議を楽しみにしております。

### 池村委員

おはようございます。今回、新任で委員をいたします流通経済大学池村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。企業については、いろいろと考察しておりましたが、中小企業分野は勉強の仕方が違っております。これまでの経験を合わせ発言していきたいと思っております。少しでも貢献できるよ

う努力してまいります。よろしくお願いいたします。

#### 岡田委員

おはようございます。1984年より消費者センターより委嘱を受け、相談員をしております岡田と申します。現在も週1回伺わせて頂いております。消費者目線で毎回意見を述べさせていただいております。よろしくお願いいたします。

#### 帯川委員

東京電機大学の帯川です。足立区との関連は昨年からになりますので、足立区では新米ですが一緒に勉強しながら足立区の魅力の発見、経済の発展に貢献していきたいと思っております。わたくし、研究では2つのサポインを抱えています。福島県と兵庫県の企業、1つは研究者として、1つはアドバイザーとして活動しています。足立区の企業ともそういった活動を行っていきたくと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 青木委員

初めまして。都内農業組合の中で、農業事業者として若手を取りまとめる立場で参加させていただきます。足立区の中でも農業は特殊な産業かと思っておりますが、区内では最も古い産業のひとつでありますので、地域の実情に密着した立場で意見をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

#### 秋山委員

初めまして。連合東京東部ブロック地協の副議長の秋山と申します。私は、日本交通の千住営業所に所属しております。足立区の今後の経済活性化計画には敏感になっております。よろしくお願いいたします。

#### 阿部委員

おはようございます。足立区しんきん協議会を代表してまいりました。足立成和信用金庫本店長の阿部と申します。足立区しんきん協議会は、区内9つの信用金庫、55店の代表世話人しております。区内の商工業、産業を盛り上げたいと思っております。日頃は、切磋琢磨しながらやっている9つの信用金庫を一堂に会して足立区の経済発展のため力を尽くしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

#### 近藤委員

おはようございます。東京商工会議所足立支部副会長を務めております近藤と申します。会社は、美濃紙業と申しまして、紙のリサイクル、古紙の集荷などを行っております。千住に本社がございます。自身も長く千住におり昔からの状況の変化がよくわかるひとりです。これからも、足立区のために何かお力になればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 真田委員

おはようございます。そしてまた初めまして。よろしくお願いいたします。あだち異業種連絡協議会副会長、真田と申します。あだち異業種連絡協議会は、足立区にある4つの異業種グループが統合してつくりましたグループです。事業者が多い中、足立区を活性化させたいと日々目標に思っております。今回初めて参加させていただきます。よろしくお願いいたします。

#### 瀧野委員

おはようございます。消費者友の会は、まもなく設立50周年を迎えます。私共は、消費者に関することを勉強しております。商連の事務局に協力いただき、区内商店街は隅々まで歩いております。これからも、消費者に関することを勉強するとともに区に貢献していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

#### なかだ委員

イラストレーターのなかだえりと申します。よろしくお願いいたします。長らく千住に住んでおり、仕事場も千住に構えて活動しております。日常の生活の中から見えてくる、足立区の問題や意見を話していけたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 本山委員

オレンジアーチの本山です。創業支援施設「かがやき」で創業し、11月で創業10年を迎えました。先輩もおられますので、足立区では創業10年以上更新しているのでうれしく思います。私も足立区で創業したメンバーとして、創業者の支援や経済活性化に貢献できればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 山崎委員

足立区商店街振興組合連合会副理事長を務めております山崎と申します。宿場町通り商店街会長も務めており、商店街は多くの問題を抱えております。これについてお話ししていけたらと思っております。よろしくお願いいたします。

#### 渡井委員

皆様こんにちは。丸勤食販企業組合代表理事渡井と申します。私どもは、千住の魚河岸足立市場内で医療、福祉、保育に食材を納め本年、事業65周年を迎えました。足立市場では、足立市場協会理事、買出人団体連合会では会長を務めております。足立市場との窓口の役割を担いつつ、あだち菜うどん学会を通し足立区産小松菜を使ったあだち菜うどん、パスタを地域振興のために活動しております。あだち菜うどん学会は、東京商工会議所足立支部様、JA様、足立成和信用金庫様のご協力をいただき足立区とともに活動しております。こちらの窓口としてもご相談をお受けしたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

#### 島田産業政策課長

ありがとうございました。続きまして、事務局および職員を紹介させていただきます。

(管理職員を紹介)

#### 島田産業政策課長

次に、本日の委員数を報告いたします。

委員定数19名、出席委員15名であり、本日の会議が成立していることを報告いたします。

続きまして、会長の選任を行います。「足立区経済活性化会議規則」に基づき、会長は学識経験者である委員の中から互選により定めることになっております。

学識経験者の委員の皆様、いかがでしょうか。

#### 阿高委員

経済活性化会議委員として経験豊富な中根委員にお願いしたい。

#### 岡田委員

私も中根先生にお願いします。

#### 池村委員

私も中根先生にお願いします。

#### 帯川委員

私も中根先生にお願いします。

#### 島田産業政策課長

それでは、会長を「中根委員」にお願いすることに決まりました。

続きまして、副会長の選任についてです。会長が、委員の中から2名を指名することになっております。中根会長、副会長の指名をお願いいたします。

#### 中根会長

阿高委員と岡田委員を指名します。いかがでしょうか。承認いただけるようでしたら、拍手をお願いします。

#### 島田産業政策課長

それでは、本会議の会長をお務めいただきます、国士舘大学の中根先生より、ご挨拶をお願いいたします。

#### 中根会長

改めまして、おはようございます。企業社会では、オープンイノベーションが大変注目されております。IoT企業をはじめとし、自治体、NPOといった人たちが連携し、新しいものを作り出していこう、先読みのP&G社により非常に効果が出ています。一方、抽象的ではありますが集合知というコンセプトも企業では注目を集めています。いろいろな人たちがいろいろな意見、多様性を発揮し活発な意見をお願いいたします。

#### 島田産業政策課長

ありがとうございました。では、この後の議事進行を中根会長にお願いしたいと思います。中根会長よろしく願いいたします。

## (議事)

### 中根会長

本日は、担当課より、1件の「協議事項」があります。こちらについては、委員の皆様のご意見をお伺いすることを目的としておりますので、皆様の忌憚ないご意見をいただき、産業経済行政に活かしていきたいと思っております。事務局より「前回会議協議事項の進捗状況」について説明があります。次に、「報告事項」が7件あります。

それでは、「次第」に沿って進めてまいります。次第の4「まちづくりの現状と産業経済部の取り組みについて」、事務局から説明をお願いします。

### 島田産業政策課長

次第にありますように、今回はまちづくりに関する産業経済部の取り組みについて、皆様にお伺いしたいと考えております。

ご意見を伺うにあたり、私から「足立区のまちとしての位置づけ」について、「エリアデザインの進展」について、「足立区の空き家対策」についての3点をご説明させていただきます。その後、皆様からご意見を頂戴したいと思います。

まず、まちとしての位置づけについて、ご説明したいと思います。まちづくりには大きく分けて土地利用の大枠を決める「都市計画法」とルールどおりの建築物が建つかどうかをチェックする「建築基準法」があります。都市計画法では、都が都市計画に関する基本的な方針を定め、これに即して、区が地域に密着した都市計画を策定することとなっています。

都が作成している東京都市づくりビジョンにおいては、都内を5つのゾーンに分けて、基本方針を定めています。ゾーン分けについては、スクリーンをご覧ください。このゾーン分けにおいて、足立区はここ10年程、主に「東京の都心居住を支えるゾーン」と位置付けられてきました。昨年改定された「東京都市づくりグランドデザイン」においては、環七以南が中枢広域拠点域、環七以北が新都市生活創造域とされていますが、言葉は変わったものの東京における、「居住エリア」であるという点に大きな変更はありません。

こうした都市計画に関する基本方針を身近に感じることは少ないかと思いますが、皆さんの生活にも大きく関係するのが、都市計画法における地域地区の一つである「用途地域」です。「用途地域」とは住居、商業、工業など市街地の土地利用の大枠としての土地利用を定めるもので、用途の混在を防ぐことが、効率的な土地利用に繋がるとの発想から定められたものです。第一種低層住居専用地域など13種類があります。詳しくは、スクリーンをご覧ください。ホワイトボードに貼り出したものが、実際の用途地域図となっております。しかし、この用途地域図ですと土地利用の状況がわかりづらいかと思っておりますので、簡略化した図をスクリーンに投影いたします。スクリーンをご覧ください。この図をみていただくと、環状7号線以北が住居系の用途地域を表す灰色で表示され、環状7号線以南は比較的高さの高い住居を表す黄色と、住工混在地域を表す水色、千住地域が複合系地域を表すオレンジ色で表示されております。

過去を遡りますと、足立区はもともと大部分が農地でしたが、1935年の用途地域指定の際に、区内全域が用途地域の指定を受けました。しかし、現在の用途制限と違い、当時の用途制限は極めて寛容的であったため、特に工業地域は用途制限がなく、あらゆる建物を建てられたほか、用途地域が指定されなかった地域でも、大規模で危険な工場を除いて、様々な建築物を建てることができました。

こうした状況もあり、当時から市街地として整備されていた環状7号線以南の地域では住工混在が進んでいきました。環状7号線以北の地域は、人口急増に伴う旺盛な住宅需要を受け、大部分の地域が住居系の用途地域として指定されました。その後、農地が次第に住宅地へ転用されていき、市街地を整備する直接的な手法である土地区画整理事業が多数実施されたこともあって、名実ともに住宅地として整備されていきました。こうして、足立区は「都心居住を支えるエリア」となっていくのです。

居住エリアとしてみる足立区は、住宅地化がさらに進展し、良好な環境が広がっていると言えますが、区内産業の操業環境という視点から見ると、違った側面がございます。区内産業を事業所数ごとにみると、製造業の事業者が全体の13%を占めておりますが、工業地域が非常に限定的であり、住工混在エリアでは益々住宅地化が進むなど、既存の工場は周辺環境に一層配慮しながら操業されていると伺っております。

また、区内には運送業の事業所も多く全体の6%を占めておりますが、事業を順調に拡大させている中小企業が、区内で工場や運送の拠点を拡張、移転したいと考えても、そもそも工業地域に限られていることや、操業可能なまとまった土地が手に入らないこともあり、苦勞されていると聞いております。

用途地域の指定は東京都知事の権限となっていること、近隣住民の方々のご理解をいただかなければ

ばならないことなどから、工業地域を増やすことは困難な状況にあるため、企業の誘致や既存工場の拡張などは今後も実現に向けたハードルが高い状況が続くと考えております。そのため、区では既存の工場等が操業を続けることができるよう、設備の更新等をはかる補助金を設けるなどして、既存の製造業、運輸業を支援しているのが現状でございます。

足立区のまちの状況についてご説明させていただきましたが、次に現在行われているまちづくりについてご説明させていただきます。

足立区では「綾瀬・北綾瀬」「六町」「江北」「花畑」と「千住」「西新井・梅島」「竹の塚」の7つのエリアを対象に、まちの特徴・魅力や求めるべき将来像などをエリアデザインとして、区内外に広く発信することで、民間活力を誘導しながら区有地等の活用を図り、さらなるイメージアップにつなげるものです。これまで、7つのエリアのうち、「綾瀬エリアデザイン計画」、「花畑エリアデザイン計画」、「六町エリアデザイン計画」が策定されました。「江北エリアデザイン計画」、「綾瀬・北綾瀬エリアにおける北綾瀬ゾーンエリアデザイン計画」については現在策定中です。これらの地域は、街が大きく変わっていく地域となりますが、その代表例として、先月まで作成中のエリアデザイン案について、区民の方々の意見を募集していた江北エリアについて、ご紹介させていただきます。江北エリアについては、悲願であった東京女子医科大学東医療センターの誘致が実現します。この大きなチャンスを活かすため、エリア内に創出される複数の大規模な用地を効果的に活用するとともに、コンセプトにあった都市基盤施設の整備やソフト事業の展開など戦略的なまちづくりを進めていきます。手法としては、区の基本計画や都市計画マスタープラン等を土台としつつ、エリアの特徴を示す統計データやまちの評価につながる住民アンケート結果の分析を通じてエリアの強みや弱み（課題）を把握し、「江北エリアデザイン計画（案）」を作成しました。先日まで、この計画に対するご意見を募集しておりました。アンケートの結果からは、江北エリアの子供の虫歯、肥満などのデータ、大人の肥満割合が、区の平均値よりも低いことが分かっております。また、江北エリアの最大の強みを、東京女子医大東医療センターの移転であると定義しました。

これらのことから、【健康】をこの計画の大きなテーマとし、4つの視点をもとに、まちづくりを進めていくこととしています。4つの視点とは、「病氣予防」、「体力づくり」、「安心」、「にぎわい」となります。

このうち、産業経済の視点からも重要となる「にぎわい」の具体的な取り組みとしては、日暮里舎人ライナー沿線をにぎわい軸として設定し、日常生活における買い物や飲食などに適した商業施設等を誘導する、大学病院移転に伴う、バス交通を誘導するといった案が挙がっており、その動向に注目していきたいと考えております。

足立区のまちづくりについて、事例をご紹介させていただきました。こうした大きな動きは、街を一変させる事業ですが、より小さな単位で、街を元気にする動きとして、空き家に関する取り組みを行っております。

空き家を含めた老朽家屋やごみ屋敷の対策を行う一方で、平成29年度足立区空き家利活用促進事業コーディネート業務委託として、空き家を活用する取り組みを実施しており、今回はこの事業をご紹介させていただきます。

この事業は、北千住駅東口地域である千住旭町、千住東二丁目、日ノ出町、柳原一丁目二丁目を対象にしており、戦前に建てられた古民家や、木密住居地域が広がり、下町らしい路地が多く存在するエリアです。一方で、足立区内において最も空き家率の高い地域であり、無接道による再建築不可の建物も多く、防災としての課題も多く存在しています。北千住駅西側の賑やかな商業地域に対して、東側の商店街の裏側にひっそりとした住宅街には複数のアーティストの拠点がすでに存在します。こうした千住地域で活動したい方や店舗を構えたい方を誘致または発見し、拠点や住居を提供し、地域の人達や既存のコミュニティーとの連携をつくることを目指しています。空き家利活用や人々の新しい繋がりによって、活気やにぎわいを生み出し、それぞれが相乗効果を持ち、自発的で持続的な活動をしていく村のような関係性の構築を目指して、事業を開始しているところです。事業を行う中で浮き彫りとなったのが、当初空き家と想定されていた建物の多くは何らかの利用がなされていて、純粋な未使用の空き家は少ないということ、所有者が遠隔地にいる例も多いということ、耐震基準を満たさない物件も多く、改修が必要なケースが多いということでした。こうした居住者はいるが、見た目には空き家と思われる物件は、にぎわいを損ねる要因となってしまいます。また、趣のある建物ほど、耐震基準等に照らすと改修が必要と判断されることが多く、その魅力を十分に活かしきれない可能性がございます。加えて、物件を借りたい人の要望と、貸したい人の要望のすれ違いも、利活用の促進のうえで大きな課題となっています。ここまで、まちづくりに関連して、まちづくりのルール、大規模なまちづくりの様子、空き家に関する取り組みについてご紹介させていただきました。

産業経済部としては、にぎわいづくりの可能性を、地域の方々と模索していきたいと考えております。その手法の一つとして、居住者はいるものの現在営業していない店舗（仕舞屋・しもたや）を、

地域の活性化につながるよう利活用できないかと考えております。現在実施している空き家に関する取り組みとの違いは、「にぎわいを作る」という点にあり、そこに足立区らしさや、おもしろさ、新しさを加え、事業を構築していけたらと考えております。この新たな取り組みは、現在検討を始めたばかりの状況で、未だ形が見えておりませんが、委員の皆様からは、ご自身の視点から忌憚ないご意見をいただき、今後の検討材料にさせていただきたいと考えております。ご意見をいただくにあたり、参考となる事例をご紹介させていただきます。全国の様々な場所で実施されている「リノベーションまちづくり」、についてです。

『リノベーションまちづくり』とは、今あるもの（空き家や空き地など）を使って、新しいコンテンツを生み出し、自分たちの望む暮らしを自分たちで創り出していこうという取り組みです。現在、都市課題とされている空き家や空き地を使って、人と人、人と仕事、人とまちといった様々な関係性を構築していくことを目指して活動が展開されています。遊休不動産のリノベーションという手法を用いることで、初期投資を抑えられ、実行までの期間も短く、収益を上げやすいという利点があります。手法の特徴としては、遊休不動産の有効活用による、まち再生の推進と、その担い手を育成することを目的とした、リノベーションスクールを開催する点にあります。このスクールでは、リノベーションまちづくりのノウハウを実践的な3日間のカリキュラムで学び、最終日には公開の場で物件オーナーに向けてプレゼンテーションを行います。スクール後、策定した計画の事業化を目指すといったやり方があります。この手法の先駆けは、北九州市で、小倉中心市街地では、商店街の空き店舗の増加、テナントの撤退、事業所の福岡市への流出、就業人口の減少、施設の老朽化等の影響によりにぎわいや活力が減少していました。特に、平成20年9月のリーマンショック以降、事業所の閉鎖や統合の動きが加速しており、こうした状況を打破するために、リノベーションまちづくりに取り組んだと聞いております。少し古い数値ですが、平成26年9月までに13件の物件が再生され、約300人の雇用が創出されたそうで、魚町商店街の通行量が3割増加するなど、にぎわいの創出にも役立っているとのこと。ご紹介した事例は一例ですが、空き店舗を、地域の活性化につながるよう利活用する方法について、こうした事例も参考にしながら、検討をしていきたいと考えております。

検討するに当たって、委員の皆様から、これから申し上げる事項についてご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしく願います。

まず、足立区ならではの施策を実施していくにあたり、「足立区らしさ」とは何か、皆様の視点からご意見を賜りたいと思います。まちづくりは、そこに住まう人々の意見なくしてはできないものですが、まず皆さんが思い描く「足立」というものが、その原点になろうかと思えます。そういった意味合いで、この質問をさせていただきたいと思えます。

そのほか、検討資料に書かせていただいた「足立区のおもしろい街」「おもしろい場所」「街のにぎわいに必要な取り組み」「空き屋に対する産業経済部としての取り組みの方向性」「北千住のにぎわいを他の地域へ広げていく方法」といった事項についても、お時間の許すかぎり、ご意見を頂戴したいと思います。

よろしく願います。

中根会長

はい、ありがとうございます。ここまでの説明について、委員の皆様からご質問などはありますか。事務局の方から、まちづくりに関するいろいろな説明がありました。盛りだくさんな内容でしたので、もしこのあとも疑問点が出てきた場合には、そのつどご質問いただければと思います。事務局より意見を求められている点について、今一度整理させていただきます。

まず、「足立区らしさとは何か」、「足立区のおもしろい街、おもしろい場所」、「街のにぎわいに必要な取り組み」、「空き屋に対する産業経済部として取り組みの方向性」、「北千住のにぎわいを他の地域へ広げていく方法」といった点についての意見を求められております。まず、「足立区らしさ」とは何かについて、ご発言いただきたいと思えます。本山委員いかがでしょうか。

本山委員

空き家の取り組みについて発言いたします。空き家活用の事例として、外国人の留学生や就労希望者にシェアハウスとして空き家を提供できないかと考えている人がおります。一つの投資なのですが、相談を受けております。また、荒川区では空き家をリノベーションシカフェを運営している事例があります。区のいえまちプロジェクトで空き家対策として活発に取り組んでいるのは良いと思えます。投資サイドからいえば、特殊な物件のためリノベーション工事にかかわる人たちが見つけられない状況があり、そのような斡旋があると良いと思えます。空き家は不動産市場にのって来ないので、いえまちプロジェクトをもっとオープンにできないか。また、プロジェクトは魅力的で広報もよくされていると思う。しかし、外からの投資などの場合には入りやすい環境が作れたらよいと思う。千葉では、何棟かを宿泊施設として活用し町全体で観光をする、また川越や松本などのように古い街並みを再生するなど足立区でもできたらいいと思えます。



中根会長

ありがとうございました。今、本山委員からお話のありましたいえまちプロジェクトについて、なかだ委員よりご説明願います。

なかだ委員

いえまちプロジェクトには、立ち上げから携わっています。千住地域を中心に古い建物の活用やリノベーションについて考えています。基本的メンバーは、建築家、大工、建築科の教授、カメラマン、イラストレーター、編集者などで構成されています。建築面からのサポート、発表するためのカメラマンなど整ったメンバーでスタートしました。しかし今は困難な時期で、物件などのマッチングも試みていますが、相続問題、持主が遠隔にいるなどの問題もあり、うまくコミュニケーションがとれず空き家になっている状態です。持主とコミュニケーションがうまく取れれば、売ったり、貸したりと活用されているはずですが、NPO やボランティア団体などほかに仕事を持ちながらでは、難しい活動だと実体験として感じています。活動をするためには、専門的に事業として行う会社もしくは、行政の支援のどちらかが必要だと思います。自身の体験として、個人で千住に新たにアトリエを探している際に、高齢化や認知症などやはり社会問題だと実感しました。千住では借り手が多いにもかかわらず、個人の問題で多くの空き家が存在する事が実感として残りました。現在、リノベーションは広く認知され、当たり前となってきています。会社や自治体がきちんと取り組んでいただきたいと思います。また今、リノベーションを足立区のアイデンティティーとして打ち出すのは、すでに遅いと思います。では足立区らしさと考えた時に、創業支援や企業と地域コミュニティを結びつけるような、単体として空き家を取り扱うのではなく仕事、働く場として活用していくことができれば足立区らしさが生まれ、雇用にもつながっていくのではないのでしょうか。

中根会長

ありがとうございました。行政について、要請がありました後ほどお答えいたします。次に山崎委員お願いいたします。

山崎委員

地元の話ですが、千住三丁目地区でも開けていない店などが若干あります。再開発ということで、大手事業者がいろいろと交渉をしているようです。しかし、なかなかまとまるまでに大変時間がかかります。その間、その地域では商店街として機能しない状況です。だからと言って短期的に貸せればよいかというと、権利が発生し敬遠される。このような状況を踏まえ、どのように解決していくかが問題と考えています。例えば、千住地区では下町らしさを保持しつつ新しい街を創っていくことが時流になっていると思います。柳原などには趣のあるところが多く、芸大生をはじめとし、大学生の活動などで空き家の再利用が行われ効果を上げていると思います。この方向性で進んでいくといいと考えております。

中根会長

ありがとうございました。山崎委員より現状をお話しいただきましたが、何かご意見、感想はありますでしょうか。

池村委員

空き家の扱いとして、まとまったスペースで大手不動産事業者の介入もありかと思いますが、街の構造として、商店街の先に居住地域、マンションなどがあれば必然的に商店街に人の流れができ、居住者の商店の発見につながると思います。効率の良い不動産の扱いのなるのではないのでしょうか。現在住んでいる場所が、このような構造になっています。スペースの大小により、いえまちプロジェクトのように個々に対応していく、大きなスペースでは不動産業者による開発の手を入れるとの発想ができるのではないかと思います。

中根会長

ありがとうございます。足立区らしさというテーマでお話を伺っておりますが、空き家やなど話が広がっておりますが、この方向性でよいと思います。では、渡井委員お願いします。

渡井委員

足立区でも、ぜひリノベーションスクールを開設していただきたいと思います。先ほどから出ております空き家についてですが、いえまちプロジェクトの地道な活動の拡大であれば、マンパワーや費用面に相当な無理があると思います。まさに、行政の出番ではないかと思っています。足立区の良さは人のおせっかいだと思うので、今足立区がおせっかいの領域に踏み込んでいただきたいと思います。例えば、「ときめき」など多くの人の目に触れる媒体で、借りたい人、貸したい人のサイトを紹介するなどしなければサイトを立ち上げるなどマッチングの効率をあげ加速させるのは行政の力ではないのでしょうか。空き家、空き店舗の提供希望者等にメディアを使い迅速に進めるチャンスではないかと思っています。また、足立区外からきて、足立区の魅力にはまり事業展開をしている方がたくさんいます。このような方々の意見もどんどん取り入れていくべきだと考えます。

中根会長

ありがとうございます。行政に対する要請が出ましたが後ほどお答えいたします。情報発信については、すぐにも取りかかれる手段のひとつだと思いますので、実現に向け努力をお願いします。続きまして、瀧野委員をお願いします。

瀧野委員

今までは、企業や商店経営側がよくなるためのご意見なので、一区民の意見を申し上げます。千住大橋地域は、開発が進み高齢者が買い物に行ける店が1軒しかなく商店街が機能していません。小さな区民の声も取り上げ考えていただきたい。大規模店舗の影響により商店街がなくなり困っている人もいることも踏まえ考えていただきたい。

中根会長

ありがとうございます。先ほど本山委員、なかだ委員の行政にコミットすべきとのご意見、今の瀧野委員のご意見について行政サイドからお答え願います。

吉田産業経済部長

空き家プロジェクトにつきましては、住宅課で行っております。千住地区は全件調査を行い、空き家の状況を把握しております。空き家プロジェクトに参加の希望を募り、アイデアをいただき、コンテストなども行いました。別のオーナー様からも参加希望をいただきました。しかし、なかだ委員のご発言にもありましたが、提案者とオーナーのマッチングが非常に難しい。また、山崎委員のお話にもありましたが、街の変化には時間がかかる、千住地区についてはすでに都市建設部が取り組んでおります。創業者やリノベーションなどのキーワードが出ていますが、委員の皆様のご意見どおりならず、街の未来はその街に住んでいる人に考えていただくことが一番大事で、自分たちの街は自分たちでというのは、当然のことと思っています。住んでいる人たちが満足できないことを街に入れても、難しいことだと思います。たとえば、リノベーションを行う創業者に街に入ってもらっても、街が受け入れてもらえなければ何もならないと思います。産業経済部でそのような事業を行っていくとして、何が必要か、街を良くするためにどうしたら良いかを街の方々と十分な話し合いのうえ、その結果に参加したい方を呼び込んでいくことが望ましいと思っています。たとえば、空きアパートなどを店舗化するなどが時流ですが、庭先や玄関先での創業なども最新事例であります。このようなことも含め、街の活性化を考えています。ぜひ、そのようなことも含めご意見を頂戴し、街の方々と新しいアイデアを考えていけたらいいと思っています。現在行われているリノベーションを単に進めるのではなく、私どもは地元の方々と密着してやっておりますので、それを抜きには考えられません。

中根会長

つぎに、真田委員をお願いします。

真田委員

先ほどのご意見にもありましたが、足立区は下町特有のおせっかいの街です。それがゆえ、犯罪等が未然に防げていたのかもしれない。ですから、古くから住んでいる方たちが住みやすく、そのまま住み続けられることが大事だと思います。空き家、商店街についても、古くから住んでいる方たちが心地よくいられる街が大切なのだと思います。緑町では、はるかぜの運行に伴い交通事情が改善し、以前と比べると高齢者の方も駅まで買い物に行き易くなっています。そうすると、1つの店舗ですべてが揃えられます。これまで御用聞きサービスをしていた店舗の衰退につながり、閉業、空き店舗となってしまう。だからと言って、店舗を貸すには様々な葛藤があります。実際問題として、足を運んで話をよく聞くことからすべてが始まるのではないのでしょうか。手間のかかることではありますが、話せばわかってもらえる方々です。外からくる方々も、足立区に魅力を感じていただき、新しく事業を始めるのも大変すばらしいことだと思います。確かに、長く住んでいると何が良いかなどまったく解りません。昔から遊んでいた路地など日常の景色ですが、外から来た方はこの風景に趣を感じたりしています。日常の景色を見直すきっかけを作ってくれるのは、外から来た人たちです。外から来た人たちと地元の人たちが、もっと親密になればより良い方向に進むのではないかと思います。

中根会長

ありがとうございます。私も数年前に実証研究をしたことがあります。職場の世田谷区と足立区でそれぞれ区民にアンケートを行いました。かなり差が歴然としていました。おせっかいのようにつながりが、世田谷区のほうが若干希薄でした。半面、世田谷区は外のつながりに目をむけていました。足立区は、逆に内側に向いていました。区外とのコラボレーション、区外の人たちを巻き込むことも含めれば、新しいカンフル剤になるような気もいたします。おせっかいは非常に良いことで、足立区の良さを引き出すポイントだと思います。

次に近藤委員をお願いします。

## 近藤委員

最近、地元小学校の子供たちが工場見学に来ました。その際のテーマがリサイクルではなく、「まだある町工場」でした。町工場がどんどん減少しており、足立区全体でこのような状況があると思います。また最近、商工会議所のとある職員に足立区の良さを聞いたところ、人と人のつながりの強さだと答えました。逆に良くないところはと尋ねると、自治体や行政に頼る、依存する体制が多いということでした。足立区では、様々な人たちが混在しています。また歴史的にも多くの史跡があり、様々な魅力が混在していることが足立区の良さだと思います。空き家については、想像の域を出ませんが交通不便地域の空き家利用を考えた際に、シングルマザー問題の一時的保育施設や中高年の方が地域で創業したいと思った際に利用できるようにするなど地域に密着した施設が良いのではないのでしょうか。

## 中根会長

ありがとうございました。次に阿部委員お願いいたします。

## 阿部委員

検討課題の中で、空き家問題がクローズアップされています。北千住以外の地域にもこのにぎわいを広げたい方法など検討課題がはっきりしていないので難しいことです。先月、古民家を改装し成果を上げている千葉県佐原市へ視察に行っていました。佐原市は古民家を1棟貸しのホテル、安価で利用できるホステルに活用しており、そうした例が点在しておりました。佐原市の取組はレビックを活用し、地域金融機関が出資したものを創り、別の運営会社を創り経営していく。実際に見学をしましたが、外国人の方が好みそうな部分を取り入れており、平日でしたが多くの外国人の方がいらっやっていました。その地域の売りにしてやっていく良い例だと思いました。売りをつくるためには、発信、まちづくり、消費者、住民の年齢構成、地域性の違いなどをよく考えたうえで、同時に広報にも力を入れやっていく必要があると考えます。また、区のエリアデザインを住民の方たちがどの程度知っているか、どのようなことを求めているかなどアンケートもひとつの手立てですが、いろいろなところで、会話の場を設けることが必要だと思います。在住、在勤などそれぞれに考え方の違いもあると思います。そこを、どのようにまとめていくかが一番重要だと思います。これからの当金庫の今後の取り組みについて、少しお話をいたします。この北千住で一番元気があるのは、飲食店であると思います。そこで当金庫では、旭町側、東口側一体となりこのエリアの情報誌を作成し広く外に発信し、そこにその他の小売店の方々も引き込みながらやっていけないかとスタートを切ったところです。Origami Payなども活用しながら、加盟店を増やしながらいろいろな方々に向け、キャッシュレスも可能など、いろいろなことができる商店街を創っていこうと考えております。月末よりまずは飲食店の方々、職員向けのアンケートを実施します。足立区らしさや、足立区の魅力がどのようなものであるか職員の目線、商店街にご協力いただき、ご意見を取り入れて行政にぶつけていき、一緒にやっていけたらとスタートいたします。来年度の目玉になるかと思っています。その土台を今、作っているところです。区内の信金全体にひろげられたらと、努力しているところです。行政やこの会議など情報交換を密に行っていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

## 中根会長

どうもありがとうございました。ぜひ、調査結果を活性化会議にもご提供いただき区の活性化につなげていけたらと思います。今お話のありました7つのエリアについて、茂木課長ご説明ください。

## 茂木経営戦略推進担当課長

エリアデザインとして区で取り組みを進めております。7つのエリアの基本的考え方は、民間資本を誘導し重点的な開発を予定している地域のことです。エリアデザインが区民の方々に浸透していないのではとのお話がありましたが、エリアデザインの取り組みや言葉は広くお知らせしなくともよいと思っています。一番大事なことは、区民の生活が便利になることだと考えています。1例を申し上げますと、東京女子医大東医療センター移転に伴い、周りの一方通行の解除の手続き、道路の拡幅、電柱の地中化などのまちづくりを進めています。地域の方にアンケートも実施し、希望が多くありました。東医療センター移転後は、1日、約2000~3000人程度の人の動きがあると予想されます。確実に人が増え、にぎわいが生まれます。中央ににぎわい軸を設定しておりますが、都の用途地域の見直しに合わせ、この辺を商業が出やすい環境を整えるなどを考えております。大きなところでは、にぎわいを創る、道路整備に取り組んでいます。現在、江北地域は健康をテーマにエリアデザインをやっております。人口統計的にみると江北地域は足立区の他地域より高齢化のスピードが早く、このため他地域より早く高齢化、人口減少が進んで行くと思われまます。おそらくこのままでは、高齢化、人口減少により地域の活性化が失われていくであろうと予測しています。そのような状況にはなあって欲しくないなので、まず現在お住いの方々に健康になっていただき、健康な皆様で地域を創っていただくという狙いで今回の健康をテーマにいたしました。エリアデザインでは、住んでいる方々に生活の豊かさを実感し、幸せになっていただくことを目的に取り組んでおります。阿部委員より、ご助言、アド

バイスをいただきました。今後、それを踏まえ進めていきたいと思いを。

中根会長

どうもありがとうございました。では、秋山委員お願いします。

秋山委員

私から見て足立区の魅力とは、荒川、隅田川、河川敷の広大な自然であります。これは、防災と表裏一体です。また、千住が独立していますが、荒川があることで商業地域と自然が密接でいい空間ではないかと思えます。半面、タクシーをたくさんご利用いただいております。これは、こまめな移動が不便なのではないかと感じています。足立区は広いので、路線的に西の日暮里舎人ライナー、中央に東武スカイツリーライン、常磐線と3つありますが2つは北千住でまとまっていますが日暮里舎人ライナーは独立しています。その拠点駅にエリアデザインという形で活性化していきたい中では、横のつながりをどう考えていくかは交通政策上重要となると思えます。そこで、真田、瀧野両委員に伺いますが、地元の方は横の移動について不便を感じておられますか。

瀧野委員

千住の真ん中に住んでおります。年に数回、舎人方面に出かけます。自分の地域のことしか考えていないのは、よくないこととは思いますが遠出は致しません。

秋山委員

やはり、商業など千住に集中しているので東京都のあり方とよく似ている気がします。横のつながりを意識されればもっとよくなると思えます。茂木課長に伺います。経営戦略と交通行政はマッチングしていかないといけないと思えますが、法制化は縦割りになっていますがどこが壁でどこまでアクセスできるかを教えていただきたい。

茂木経営戦略推進担当課長

多岐にわたる部分ではありますが、まず交通については交通網に関する総合的な会議を行っています。足立区の交通を電車、バスを中心にどのようにしていくかを足立区の考えを今年度末までにまとめるつもりでおります。交通空白地域、交通不便地域の解消に向け例えばバス事業者への助成など有識者を交え検討しております。今年度末には一定の区の考え方をまとめ公表する予定でおります。道路整備については、地域ごと、都市計画道路などそれぞれで整備しております。しかし、区としては優先順位をつけ東京都と相談しながら進めています。たとえば、江北の補助138号線について早く作りたいて考えております。また、江北バス通りは電線の地中化ができない現状があり、道路と民地の境界線があやふやであったりし幅が難しい状況です。区内のこういったポイントごとの議論はしております。優先順位をつけて取り組んでおります。ここでの順位付けはお示しできませんので、ご了承ください。

秋山委員

女子医大への西新井と北千住のアクセスは意識されていますか。

茂木経営戦略推進担当課長

西新井駅を含めバス4事業者が興味を示しています。上沼田第6公園にバス転回場を作ります。また、バスの始発、終点も可能になるようロータリーを作ります。病院利用者だけでなく、地域の方にも便利になると思えます。エリアデザインの一環の取り組みたいところでもあります。東西、特に環七からくるバスが上沼田第6公園に入り、環七に戻っていくような想定をしています。

中根会長

どうもありがとうございました。では、青木委員お願いします。

青木委員

先ほど秋山委員からでた東西についてです。私ども農業者は、千住には農業がございません。荒川より北側、東西南北にて営んでおります。それぞれの地域のある程度の実情を把握しております。東西の交通については、かなり不便で特に東側より西新井方面に向かうバス路線はございません。仲間も駅から遠いエリアに住んでおり、基本的に昼間は人がいなくてにぎわい自体がない状態です。また、駅から5分程度歩くと、高度成長期に建てられたであろう1軒家が多く持ち主が高齢化し空き家が出てきております。一斉に建てた時代でしたので、趣のある建物はなく建売住宅でリノベーションをして新たに貸すようなものでもありません。強いてあげれば更地にし、売却するようになるかと思えます。足立区らしさについては、ほかの地域からはネガティブなことが言われてしまいます。強いて上げるとすれば、足立区は買い物が便利だということは私の子供もわかっているようです。しかし、どうしても悪いイメージがついてくるようで、このあたりの改善が課題なのかと思えます。また、区役所の南側に直売所が作られ、個人でも直売所をやっているところがあります。にぎわいといえるほどではありませんが、区内産の新鮮な野菜を届けたいと思っております。しかし、アンケートなどからも鮮度は優先したが、価格とのバランスによりなかなかうまくいかない現状です。

#### 中根会長

どうもありがとうございました。最後に、学識経験者の方々に意見を伺いたいと思います。

#### 阿高委員

ものづくり中小企業の実情に関し話します。先ほどのお話にもありましたが、足立区は住工混在となっております。新たに工場を作ろうとすると、防音対策の費用などがこれまでよりかかってきます。だんだんコストが上がり、競争力を失っていく方向です。しかしながら、足立区の工場は優れた技術を持っており、その技術力を上げることがひとつと、余裕のある企業は工場を区外に移し、区内工場では開発、研究を行い新製品の試作品を作る使い方になっています。そこまで余裕のないところは、企業連合を作り企業同士でコラボし、新しい付加価値を見出し生き残るための工夫をしています。これからも、コラボが進むことによりそれぞれの技術のレベルを生かすことができ、将来生き延びるためには、そのようにせざるを得ないような気がします。にぎわいや足立区らしさについては、らしさがないことが下町の特徴のような気がします。ここ5～6年で足立区もだいぶ変わってきました。大学が神田から移ってくるときには、足立区のイメージは非常に悪かったのですが、現在は駅前も明るくなり、活気もあり犯罪も相当減っています。そういう意味でも、非常に住みやすくなってきていると思います。

#### 中根会長

どうもありがとうございました。

#### 池村委員

住工ミックスということで、いろいろ制限もある中で住工ミックスをやっていく。工としては限られた中で支援をしていく。その次に、エリアデザインということで、にぎわい、商業施設を誘導していくことが出てきましたが、この辺で足立区らしさを検討していくかと思いました。私は、「らしさ」ということでは、おせっかいは体感しております。道が狭いところがいいというのもよくわかります。車が通らない、店が近く中が良く見えるので入ってみようかという気になる。居酒屋なども店の中が良く見える。その辺が「らしさ」ではないかと思います。「らしさ」とは、人が住んで、人通りがあり商売ができることが基本だと思います。住から考え、住の誘導から人の流れを作り、人の流れの中でニーズがありますので「らしさ」というものを調査でしっかり把握し、人が入ることで「らしさ」は変わってくると思います。方針、チェック、方法、それを更新するやり方、こういったものを敏感に察知していく必要があるのではないかと非常に思いました。「らしさ」は、新しい人が入ってくると変わってきますので、調査の方法の見直しをしながら、しっかりやっていく必要があると思います。また、商業施設を作ったとしても、続かなければもったいないと思います。これはビジネスの根幹で、ビジネスの継続性は営業ですので、顧客のニーズに合ったものを提供することで成立する。そこにも「らしさ」が絡んできて、徹底的な調査が重要なのかなと感想を持ちました。

#### 岡田委員

ほとんどスーパーマーケットで買い物をしています。五反田の商店街を歩きますと、惣菜店、豆腐店、昔ながらのお店があり懐かしさと便利さを感じました。品川区には、有名な戸越銀座商店街がありますが、そこと北千住の商店街を比較すると全く違います。戸越銀座商店街に昼間行くと、本当にさみしいです。土日に行くと、外国の方が購入したコロッケを食べながら歩いているという感じで、住んでいる方々のための商店街ではなく、土日の観光客向けの商店街という感じです。そのような中において、閉店するお店が増えております。それがなぜ、あのようにメディアに取り上げられているかは、ひとえにマスコミの情報収集の欠陥だろうと思われれます。それからすると北千住の商店街は、にぎやかで高齢者のパワー、子供たちの姿は他の地域では見られないと思います。瀧野委員のお話を聞き、足立でもそういう地域があるのかとびっくりしました。このにぎわいをぜひ広めていただきたいと思います。また、大学の環境問題のシンポジウムがあり、足立区の空き家条例、ごみ条例について紹介しておりました。1番最初に取り上げたのが足立区だと、外の人はずなぜ行政がそのようなところに入っていけるのかと言っていました。今から考えると、先見の明があったと思います。空き家のように空き家ではない家は、空き家以上に大変だと思います。それに対し、これから行政が手掛けようというのは、まさに先見だと思います。これに関しては、区民をあげて協力して成功させていきたいと思います。

#### 帯川委員

こちらに来て最初に購入した本は、千住のお店を紹介するものでした。飲食店の多く載っているもので、評価が3.5程度つくものが多くありました。入って失敗することが少ないことがわかりました。多様な店が競い合っている。飲食店関係としては、多くの方が集まれる地域になっていると感じました。次に感じましたのは、リバーサイドが多いということです。リバーサイドと申しますと、最近では高級集合住宅が増えていますが、人口動態として他地域からの流入人口が増えているのでしょうか。リバーサイドは広い空間と良い環境のところだろうと思います。次に、千住東地区に行きましたが、

少し開発され、道幅が少し広がっているところもありました。そのようなところは、落ち着いていて車が入ってくることもなく、非常に住みやすいところだろうと思いました。新しく建てられた場合には、道の前も広くなっており、建物も住みやすい感じがしていました。そういう中にある空間とは、防災面を除けば、非常に住みやすく子育てに適した環境といえると思います。足立区はまだ色が無い状態で、これから色付けをしていかなければならない街だと感じました。どうやっていい所を色付けして、街を育てていくかが重要だと思います。

中根会長

どうもありがとうございました。貴重な意見をいただきましたので、ぜひ有効に活用してください。続いて、次第の5、報告事項についてです。資料5をご覧ください。こちらについては、事前に委員の皆様の内容をお目通しいただいているかと思います。今回の報告内容について、質問や意見がございましたら、ご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。何かご発言はありませんか？他に事務局からありますか？

吉田産業経済部長

ご質問のありました、他区からの人口流入についてですが、今のところ増加している状況です。埼玉方面からの流入もあります。私たちが現在直面しているのは、日本人1人に対する複数の外国人の流入という変化が見られています。

茂木経営戦略推進担当課長

足立区の人口は確実に増えています。増加の割合は、日本人より外国人の方が高くなっています。その要因については、経済動向に左右されることもありますので、地域、理由など分析中です。世帯向けファミリーマンションの建築確認が多かったのですが、最近は単身者向けが増えている傾向になっています。

中根会長

どうもありがとうございました。ほかにありますでしょうか。

岡田委員

商店街で、最初に閉めるお店は魚屋が多いようです。足立区の場合は、魚屋の状況はどうなっているのでしょうか。

吉田産業経済部長

商店主、技術者、農業者などの方々は、70歳を超えて活躍していらっしゃいます。元気の秘訣として、月1回ピックアップしご紹介しています。魚屋については、やはり多くのお店が閉店をしております。移動販売車を今年春から入れましたが、やはり経営が難しいという状況でした。魚の摂取事情が変わってきている状況でなかなか魚屋は厳しい現実だと思います。

中根会長

ないようでしたら、本日の会議はこれで終了いたします。ご協力ありがとうございました。それでは、事務局に進行をお返しします。

島田産業政策課長

中根会長ありがとうございました。それでは、これもちまして、足立区経済活性化会議を閉会いたします。本日はお忙しいところ長時間にわたり、ありがとうございました。

以上